富三地区 だより

今号のトピックス

○ 地域ぐるみで
青少年の育成を

第4号

2013 年 11月
（平成 25年）

編集：発行　富岡第三地区連合町内会 ／ 富岡第三地区社会福祉協議会

富三地区計画から

地域ぐるみで
青少年の育成を

「社会を明るくする運動」
地区広報紙キャンペーン

**私たちは、
地域の日常活動の中で
「青少年を見守る運動」を
実践します**

地域の可能性を探るために、
富岡中学校長先生と話し合いました

笠原校長先生のお話し（要旨）

◎子どもを真っ直ぐに育てるには、大人との関わりがなければできないことです。

■生徒と地域の皆さんが共にできることを考えた場合、機材などの準備がなくてもできることのひとつに「町の美化運動」が思いあたります。例えば、春の花植え、秋の落葉清掃などを共にすることにより、ふれあいだけでなく、子どもたちに活躍の場が与えられます。

●また、もし地域の皆さんによる「見守り隊」が結成され、登下校時の声かけなどが行われるようになれば、将来まで子どもたちの心に影響を与えることが考えられます。保護者も加わって行えるようになれば、学校・家庭・地域のつながりも深まり、その時、初めて三者の話し合いが青少年の育成に及ぶことでしょう。

地域として考えたこと

■正直なところ、地域はクレームばかり言ってくる存在として、煙たがられているのではないかと心配でした。力強く行事を手伝ってくれる生徒がいる一方で、公園や周辺地域での生徒たちの気がかりな行為が目につくのも事実です。

●今回、校長先生との話し合いで、共に何かをする、大人たちが見守る、声をかけるといった活動を繰り返すことにより、大人たちと生徒・児童の顔がつながり、その時初めて、地域の人たちが注意する言葉が青少年の心にも届くのではないか、と考えることができました。

◎今でしょう！　　日常の活動の中であたたかく「見守る」こと

「社会を明るくする運動」作文コンテスト作品集から

今、学校・家庭・地域が力を合わせてできることについて考えます

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、それぞれの立場で力をあわせて、犯罪や非行のない地域社会を築こうという、法務省が主唱する国民運動です。その取り組みの中に、小・中学生による作文コンテストがあります。
昨年度の第62回「社会を明るくする運動」神奈川県作文コンテスト　小学生の部
神奈川県保護司会会長賞受賞作品**「伝えることで社会は変わる」**から抜粋して、紹介します。

毎日ニュースでは、様々な事件が報道されています。交通事故や殺人事件、万引きなどが伝えられています。しかし、実際に体験したことがない人は他人事だと思いがちです。私も前までそうでした。ニュースで見ても「大変だったね」の一言で終わってしまいます。

しかし、私はそう思えなくなる体験をしました。五年生の時のことです。私は習い事に行くため、駅まで行くバス停に向かって歩いていました。その時の私は、音楽を聴きながら下を見ていました。すると、急に後ろから口を押さえられてつれていかれそうになりました。私は力ずくで手をはなしました。すると、その人は逃げて行って、はなれた所で私のことを見ていました。私は急にこわくなって走って行ってしまったのですが、あの時のことは、今でも鮮明に覚えています。大人の人ではなく学生だったことや一人だったことなど、でも、お母さんには言いませんでした。言う勇気がなかったからです。それに、相手も悪いですが自分にも悪い点があったと思ったからです。もし、音楽を聴いていなければこのことは無かったかもしれません。

ですが、次の日先生に言いました。こわくて泣きそうでしたが、先生はお母さんに話してくれました。お母さんはとても心配してくれて、地区の自治会長さんに話してくれました。すると、自治会の人達はパトロールを強化してくれました。以来、そのような話を聞いたことはありません。

私は体験したことを通して、本当にいい人達に恵まれていると思いました。人から人へのつながりで防止することができたからです。この事はとても大事だと思います。助けてくれる人がいるということはすごく安心できます。

（以下省略）

上記の作文を読んで思うことは、学校・家庭・地域が力を合わせることの大切さです。一般的には個人情報保護を思うばかりに、この種の情報のポイントが「伝わらない」ことが多いのではないでしょうか。地域は、誰がを知りたいのでは無く、いつ・どこで・なにが起こったかを知れば、直ちに全力で再発防止に努めたく思いますが、そのためには、やはり日常からの活動により学校・家庭・地域の信頼関係を深めることが必要です。いま地域に何が欠けているのでしょうか。

地域の防犯パトロール
キャンペーン活動

富三地区計画から

地域ぐるみで
青少年の育成を

地域と青少年との関わる場面の
少なさに気がつきませんか ？
もっと大人たちが見守る・声をかける
こと　　～継続することの大切さ～

地域の町内会組織には「少年部」「子供会」や、乳幼児・児童を対象に事業を担当する係りがあり、小学生までの関係づくりは何らかの形で行われています。ところが、地域と中学生になると、組織ではなく、個のつながりがわずかに残る程度となってしまいます。富三地区のように住宅地が多くを占め、高齢化率が高い地域では、登下校時の学校周辺を除き‘青少年の姿が見えにくい’という実態があります。

「部活動」に打ち込む中学生

これまでも、学校・家庭・地域連携事業として、地区懇談会が行われていますが、学・家・地の情報提供の場でした。多くの頼もしい生徒や素直な生徒がいる中で、一部の気がかりな生徒の情報についてのみ学校に連絡をすることは、それは本来の関係とは言えません。

富岡中学校　「創夢祭」

私たち地域に欠けているものは何か、を話し合っていく中で、青少年と関わる場面の少なさに気づかされました。少しずつで良いから、地域の大人と青少年がふれあう機会を持つ。

例えば、 校長先生のお話しにあった「見守り隊」を結成し、定点に立った大人が、ひとり一人の生徒たちに分け隔てなく声をかけあい、顔が見えるようになれば、自然体で、青少年に注意ができるようになるでしょう。

「町の美化運動」などを学校として年間行事に組み入れていただくには、年度当初に計画ができている必要があります。課題はありますが、それを可能にするのはこれからの関係次第です。子どもたちのために何ができるか、互いの立場で話し合いを進めながら、学校と地域、家庭との距離が接近して、結果として子どもたちが真っ直ぐに育つ・・そのような地域にするために、ご協力をお願いいたします。

本年度、これまで行ってきた「社会を明るくする運動 地区大会」という方法をやめ、「富三地区だより」の中で‘青少年の育成と地域’について考えてみました。　この広報紙はキャンペーン・特集号として全世帯に配布します。

富三地区計画から
地域ぐるみで
青少年の育成を

力強く活動する地域の青少年たちの姿を紹介します

中学生ボランティアのチカラをかりて・・

各町内会の年間行事の中には、夏まつりや餅つきのようにパワーが必要とされるものがありますが、高齢化の地域では年々負担が大きくなっています。そのような中で、地域イベントの力強い味方として、学校を通じてお願いをする「中学生ボランティア」の存在があります。この日の中学生は、積極的に手伝いをして、そのてきぱきとした働きぶりに、大人たちはいつも感心し、感謝をしています。
また、イベントで欠かせない小学生の「演技発表」や、中・高校生の「部活動発表」で見せていただく、晴れやかな姿や充実した笑顔などは、地域の大人たちに、若い人たちの可能性を感じさせてくれる光景のひとつとなっています。

伝統行事を通じてふれあう地域の大人と若者

富岡八幡宮の例大祭にむけた「まつり囃子」の継承は、地域の数少ない伝統神事のひとつです。 年間を通じて稽古を行うことで、地域の大人と児童・生徒が関わりを持ちながら、お囃子のみならず、礼儀などを伝承する機会でもあります。
今年の９月２２日にも、大谷橋から富岡駅までの道のりを往復し、お囃子の音を響かせていました。そして、大人たちが神輿をかつぐアツイ姿に憧れをいだいた青少年も少なくないことでしょう。

編集室

青少年と関わらずして、言葉だけでその育成を語っても、結果は生まれません。
お互いの顔が見えるようになるために、「見守り隊」について模策し、調査、立案した上で、保護者も含めた、地域のご協力を仰ぎたいと考えます。
その折には地域の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

発行責任者	桒折　勝利	（富岡第三地区連合町内会／社会福祉協議会　会長）
編集者	大谷　郁二	（富岡第三地区社会福祉協議会　事務局長　（西富岡町内会））
編集者	浅野　秀子	（富岡第三地区民生委員児童委員協議会　会長　（西富岡町内会））
編集者	佐藤　祥生	（富岡北部町内会　会長）
編集者	神谷　康子	（富岡西部町内会　保健活動推進員）
編集者	佐藤　克彦	（ひかりが丘町内会　民生児童委員）
編集者	杉浦　千鶴	（富岡第三地区主任児童委員　（富岡桜ヶ丘町内会））